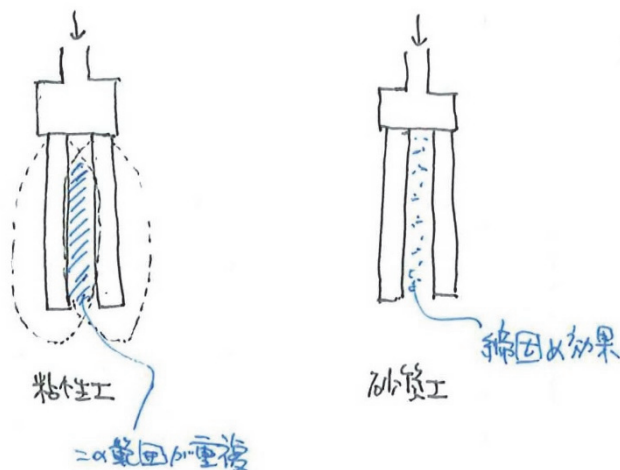


群杭について

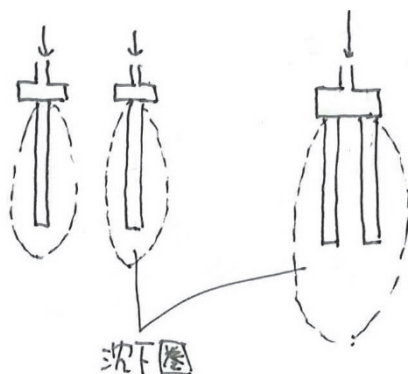
1. **粘性土**の群杭では、杭を支える地盤の範囲が重複するので、群杭中の 1 本当たりの支持力は、単杭よりも**小さく**なる。
砂質土の群杭では、締固め効果により、1 本当たりの鉛直支持力は単杭よりも大きくなる。
杭間隔を十分に確保できない場合は、群杭効果を考慮して支持力を算定する。



28194

摩擦杭において杭間隔が十分に確保できない場合は、群杭効果を考慮して支持力を算定する。
→○（群杭効果は、杭中心間隔比（杭中心間隔/杭径）が6.0以下の場合）

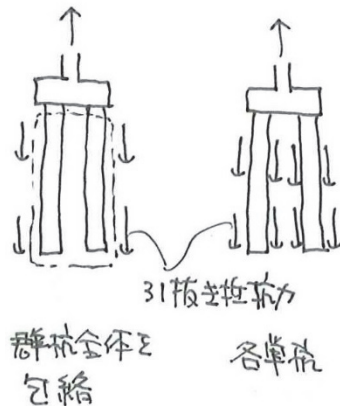
2. 群杭は、杭からの力が重なり合って、沈下に影響する地盤の範囲（沈下圏）が深くなるので、1 本当たりの杭頭荷重が等しい場合、一般に、群杭の沈下量は、単杭の沈下量より**大きい**。



17191、14182

1 本当たりの鉛直荷重が等しい場合、群杭の沈下量は、一般に、単杭の沈下量に比べて小さい。
→×

3. 群杭の引抜き抵抗力は、「群杭全体を包絡するブロックとしての抵抗力」と「各単杭の引抜き抵抗力の合計」のうち、**小さい方の値**とする。



19185

群杭の引抜き抵抗力は、「群杭全体を包絡するブロックとしての抵抗力」と「各単杭の引抜き抵抗力の合計」のうち、**大きいほうの値**とする。→×

4. 群杭基礎の場合、杭 1 本当たりの水平耐力は低下し、群杭全体の水平耐力は、単杭 1 本当たりの水平耐力に杭本数を乗じた値より**小さくなる**。

これは、各杭から地盤へ伝わる荷重が重なって作用するため。

杭 1 本当たりの水平耐力は、杭間隔が狭いほど、杭本数が多いほど、**小さくなる**。

09182

群杭基礎の場合、一般に、その水平耐力は、各杭を単杭とみなした時の水平耐力の総和よりも大きくなる。→×

5. 群杭基礎の水平地盤反力係数は、一般に、各杭を単杭とみなした時の水平地盤反力係数の総和よりも**小さな値**となる。

25244

群杭基礎の水平地盤反力係数は、一般に、各杭を単杭とみなしたときの水平地盤反力係数の総和よりも小さな値となる。→○